

事業計画書

平成 27 年度

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

公益社団法人日本滑空協会

平成 27 年度 事業計画

公益社団法人 日本滑空協会

中長期(5年)計画

将来、クラブミーティング活動を通じて滑空界のコンセンサスを築いたうえで改訂するが、当面この方針を継続する。

- ① 当協会調査では国内滑空団体所属会員総数は3,000人、公益財団法人日本学生航空連盟OB数は10,000人。当協会は国内滑空スポーツ統括団体として、全ての愛好家を考慮した施策を行う。また航空スポーツ発展のため、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体と連携する。
- ② 滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とする。
“安全”について:滑空スポーツ統括団体、滑空クラブ、指導者、パイロット、同乗者など、それぞれの義務と責任を明確化し、安全性向上を図る体制を構築する。
“楽しさ”について:滑空スポーツ愛好者の“夢”の実現を支援する事業を実施する。
- ③ 滑空スポーツ活動を場周飛行とローカルソアリングから野外飛行に向わせ、競技会振興を図り、日本滑空選手権を再開する。

平成 27年度基本方針及び重点施策

昨年度総会時(6月)に理事改選、12月末にFAI公式立会人および日本滑空記章試験員の任期更新を行った。また、昨年4月1日から特定操縦技能審査制度が本格実施され、2年目に入る。

昨年10月12日に実施した埼玉スカイスポーツフェスタ2014は大きな成果を上げた。今年も航空スポーツ全体の底辺拡大、サポーター増加を目指して、より盛大に開催する。実施は参加団体で作る実行委員会が別予算で実施するため、JSAの事業としては、実行委員会を通じての活動となる。

昨年11月29-30日大野で開催された初回クラブミーティングでは滑空界の課題を滑空界全体で解決することが決まり、①法規に関する課題(航空法、電波法など)リーダー長野、学連、JSC、関宿、大野 ②クラブ間連携、若手育成 リーダー蕪崎、中国、宮城、関宿、関西、JSC ③長期目標 競技会、滑空界目標、国際交流 リーダーJSC 宮城、長野、関西、の分科会で進め、全体を日口理事、甲賀常務理事が統括することになった。初回メンバーを発起人メンバーとして、滑空界全体に拡大したい。次回ミーティングは長野で開催することになった。

1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

滑空機は航空法の適用を受ける。当協会は滑空界代表として、個人や個々の滑空団体では対応困難な官公庁、航空界との調整などに当る役割がある。滑空界の状況や意向を適確に掌握し、情報を滑空界に伝達して滑空界のコンセンサスを得、対応するよう努める。

1.1 滑空スポーツ関連の調査

*国内滑空場マップの充実

*滑空スポーツ基礎データ(滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動)についての調査、集計
従来どおり、継続実施し、さらに多くの団体から返事を得るよう努める。(事務局)

1.2 航空関係諸団体との連携、相談答申

*滑空団体との連携

・滑空界にメールリストで情報提供を行う。(事務局)

・クラブミーティングを通じて滑空界全体の一体化を進め、参加団体を増やす。(日口理事)

*FAI(IGC)

日本代表:Delegate 甲賀常務理事、Alternate Delegate 丸山理事

- ・滑空スポーツの世界ルールである Sporting Code の普及に努める。(丸山理事)
 - *外部委員会活動
 - ・航空医学委員会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
 - ・技量維持連絡会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
 - ・学科試験問題検討委員会(事務局 JAPA JSA 小野淳委員)
 - *航空スポーツ団体との連携
 - ・SSF2015、航空スポーツ連絡会を通じて連携を図る。
 - *自衛隊、使用事業など
 - ・関東地方空域に関する連絡会を通じて連携を図る。
- 1.3 航空イベント等への出展
- *展示デモ体験
 - ・10月25日於妻沼滑空場でSSF2015を開催し、航空スポーツ全体の普及推進を行う。
SSF 実行委員長 井上理事、JSA 実行委員:吉田常務理事、甲賀常務理事
- 1.4 情報発信:各種広報手段について内容充実、編集メンバー強化策の実施
- *ホームページ運営 担当坂井常務理事
 - 協会ホームページへの各地滑空団体イベントなどの掲載を推進する。
ホームページ・レイアウトの整理、システムの強化。
 - *機関誌発刊(7、11、3月、全3回) 編集長 坂井常務理事 久田雅樹委員
内容充実を図る。
2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業
- グライダー愛好者の操縦技量維持と安全性向上のため、各種講習会や記章制度等を実施する。
- 2.1 指定航空従事者養成施設
- *制度運営 設置者:佐藤会長、管理者:鈴木常務理事、事務局長:玉中宏明、監査人:谷口監事
- 2.2 日本滑空記章制度
- *運営:事務局
 - *技能証明実地試験細則改訂、特定操縦技能審査制度本格導入に対応し、将来的にはインストラクターマニュアルとの整合を取るよう、規定を改訂する。(吉田茂理事)
- 2.3 講習会・セミナー
- *滑空スポーツ講習会 2015(事務局)
 - TOTOくじ助成金(独立行政法人日本スポーツ振興センター)対象事業として申請予定(1/未締切)。滑空スポーツ各分野(操縦技術、航空力学、気象、航空交通規則、健康等)の専門的知識の講演を行う。
 - *航空安全講習会(事務局)
 - 航空局通達に基づく、自家用操縦士の技量維持のための講習会として技量維持連絡会(航空関係5団体)と連携して実施して来たが、特定操縦技能審査制度が実施され、需要が変化している。技量維持連絡会の方針をふまえ、滑空界の状況を勘案しながら、需要に応じて実施する。
3. 滑空スポーツ競技会に関する事業
- 将来的に日本滑空選手権をFAI カテゴリー2で開催し、その中からWGC出場選手を選び、ナショナルチームとして参加することを目標に、準備を進める。

3.1 競技会主催

OLC について理事会で検討し、その結果に基づいて実施する。(丸山理事)

3.2 競技会後援:協会規程に基づいて、国内滑空競技会の後援を行う。(事務局)

- *銅章レベルの滑空スポーツ競技会:日本滑空協会賞授与
- *C 章レベルの滑空スポーツ競技会:滑空奨励賞授与
- *その他(滑空スポーツ記録会等):滑空奨励努力賞授与

3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

- *2015 予定は下記だが、これに対する参加予定は無い。
- ・8th FAI Women's World Gliding Championship Arnborg (Denmark) 8/1-14
- ・1st FAI World 13.5m Class Gliding Championship Pociunai, Kaunas (Lithuania) 8/1-14
- ・6th FAI World Sailplane Grand Prix Championship Calcinate Del Pesce (Italy) 7/5 -15
- ・2015 FAI World Air Games Dubai (United Arab Emirates) 12/1-12
- ・9th FAI Junior World Gliding Championships Narromine (Australia) 12/1-12

4.1 会員

- *滑空スポーツ愛好者の高齢化が進み、飛行活動からの引退と共に協会からの退会が増加している。これに対して若年層の会員登録率が低く、世代交代がスムーズに行われていない。

4.2 法人の体制強化、事務局業務の整備

- *公益社団法人化後ほぼ 2 年半経過し、大過なく運営している。会員数減少に伴う収入減に対応して、事務局稼働日週1日削減などの経費削減を行っている。ただしマンパワー不足は否めない。

4.4 会議

- *理事会:平成 27年度総会議案策定(5 月)、平成 28 年度事業計画案・予算案策定(1月)
- *定時総会:平成 26 年度決算報告承認、事業報告 (6 月)

以上